

地域医療に取り組む診療所に通院するコントロール良好な高齢糖尿病患者の特徴と病状コントロールに影響を及ぼす要因

丸山加菜（応用看護学）

【キーワード】 地域医療・かかりつけ医・高齢糖尿病患者・病状コントロール・影響要因

本研究の目的は、地域医療に取り組む診療所に通院するコントロール良好な高齢糖尿病患者の特徴を明らかにし、病状コントロールに影響を及ぼす要因を見出し、高齢糖尿病患者の生活を支援するための知見を得ることである。研究対象は診療所の医師からコントロール良好な高齢糖尿病患者と紹介を受け、研究対象者となることに同意を得た5名である。研究方法は、質的帰納的研究方法を用いた。まず、対象者を<地域で生活している人間>として捉えながら、半構造化面接調査を行った。作成した逐語録のデータから、事例の状況を示す文脈を抽出し、コード化し、それをもとに事例ごとの特徴を捉えた。次に、すべての事例から得られたコードをもとに共通性でグループ化した上でカテゴリー化し、コントロール良好な高齢糖尿病患者の特徴を明らかにした。更に、高齢糖尿病患者の特徴と重ねながら、病状コントロールに影響を及ぼす要因を抽出した。その結果、以下の結論を得た。

1. 地域医療に取り組む診療所に通院するコントロール良好な高齢糖尿病患者の特徴

コントロール良好な高齢糖尿病患者の特徴は、「糖尿病発症前の生活」「糖尿病発見のきっかけ」「糖尿病発症後の生活」「こころの状態」「家族との関係」「かかりつけ医との関係」「地域の人々との関係」の7つにグループ化でき、84のサブカテゴリー、44のカテゴリー、10の大カテゴリー（以下《》）が抽出された。

コントロール良好な高齢糖尿病患者は、糖尿病発症前には《健康的な生活習慣》や《糖尿病の発症に繋がるマイナス要因》、糖尿病発見のきっかけでは

《思いがけない糖尿病の発見と対処に影響した要因》があった。糖尿病発症後の生活では、《教育入院・かかりつけ医・自己学習による生活調整方法の習得》をすることで、《整わない生活》と《糖尿病コントロールを可能にする生活の実践》をいききしながら、病状が安定していった。療養生活を継続していくための、《前向きでストレスから解放されたところ》は、《生活調整や治療に向き合うところを支える家族の存在》《前向きなところに繋がる地域の人々との良好な関係》《かかりつけ医への信頼と診療の満足感》によって支えられている、という特徴を持っていた。

2. 高齢糖尿病患者の病状コントロールに影響を及ぼす要因

1) 糖尿病発見後の受診行動に影響を及ぼす要因として、検査結果の意味の理解、2) 糖尿病発症後の整わない生活に影響を及ぼす要因として、病院までの距離、糖尿病に関する知識不足、ライフイベント後の生活の変化、受診中断、健康情報に振り回されること、内服薬の自己中断、3) 糖尿病コントロールを可能にする生活の実践に影響を及ぼす要因として、患者の療養生活に必要な知識を繰り返し学習する機会、病状コントロール状況の自己評価方法の獲得、これまでの生活に合わせて、無理なく取り入れた運動習慣と食事療法、確実な薬物療法のもとに行うゆるやかな生活調整、4) 患者の療養とところを支える環境要因として、家族の実践的・心理的サポート、地域の人々との交流と生きがいや楽しみをもった活動的な生活、生活圏にある信頼して任せられる身近な存在のかかりつけ医、5) 糖尿病とともに生きる高齢糖尿病患者の原動力として、糖尿病とともに生きることをマイナスに捉えず、より健康的に生きていくための信念をもち、努力し、成長し続ける強さ、があった。

地域医療に携わる看護師は、患者の健康や生活を守る基盤が地域医療にあることを認識し、高齢糖尿病患者の病状コントロールに影響を及ぼす要因を意識しながら、かかりつけ医とともに患者に最も近い場所で療養生活を支援していくことが必要である。